

也。』とある。しかし玉泉院の生母は春譽妙澄大姉であるから、久庵桂昌はその義母であつたのである。

**キユウエモン 久右衛門** 羽咋郡生神村の肝煎。人と爲り孝心貞實、耕作に熱心し、村民の指導宜しきを得た爲、風俗一般に敦厚に赴き、隣村牛下・領家七海までも之に薫化した。因つて安永三年藩から三人扶持を賜はり、諸税を免除せられた。

**キユウガイドリヨウ 久外嬢良** 鹿島郡酒井曹洞宗永光寺四百七十六代の住持である。同寺の衰頽を嘆じて洞谷雜書一名中興雜記を著し、同寺中興の祖と稱せられた。

**キユウキユウキタン 求齋記** 一册。一名長知軍談。未森後援・鳥越城攻・筑紫陣・關東陣その他のことが記されてゐる。前田光高が澤田忠右衛門に命じ、横山山城守長知に尋問して書かされたものであるといふ。

**キユウコウイン 久畠院** 實父母不詳、前田利長夫人玉泉院に子養せられ、藩臣高島定方の室となつたものゝ法名。

**キユウコウイン 久香院** ↓キユウコウイン 求光院。

**キユウコウイン 求光院** 長連龍の女で、前田利長之を養ひ、元和七年頃前田美作直知の繼妻としたが、寛永の初め美作の歿後、利常は之を小松に引取り、城内竹島に置き、竹島殿と呼んだ。其の後長氏の下屋敷に住し、求光院宗伯禪尼といふた。藩の系譜には久香院としてある。

**キユウコウシンサク 救荒新策** 一册。長谷川猷著。天保七年五穀成熟しなかつた。是によつて猷は救荒の方を策し、植物百種を混

じて百品餅を作り食せしむるの説を稱へた。猷の考は一二の單味にては食傷するが、百味合製の物は必ず害を專にするを得ぬといふのである。天保十年大島桃年の序と山本喜之助がある。

**キユウコガツペン 汲古合編** 十二册。津田國卿が藩命を奉じて、加能越の社寺等に存する古文書を蒐集したものである。

**キユウコホクチヨウロク 汲古北徴録** 二册。宮田景周が、吉野朝時代に於ける能登の士得江・得田二氏の軍忠狀を集めて之に題したものである。今東京帝國大學史料編纂所に藏する得江文書及び得田文書と稱するものに同じい。凡そこの時代の能登の形勢に關しては、太平記僅かにその一端を記したるに止る。故に得江・得田等の豪族が、興國以降守護吉見氏を輔けて、武家方の爲に活躍した事情を知り得べきものは、専らこれらの軍忠狀があるに因る。されば景周の越登梨三州志を著すや、能登の武家方に關する記事は、悉く材を之に採つたのである。但し景周が吉見大藏大輔を氏頼なりとし、吉見掃部助をその族人であると解したるは、前者の頼隆にして、後者の氏頼なるを誤つたものである。

**キユウコホリ 靈郡** 天正八年長連龍は織田信長から、鹿島郡二宮川以西五十九ヶ村を賜はつた。之より長氏の領する部分を新郡といひ、之に對して殘餘前田氏領の部分を舊郡といふた。

**キユウゴロウジマ 久五郎島** 能美郡板津郷に屬する部落。郷村名義抄に、昔石川郡源兵衛島村から、久五郎といふ者が來つて新開した爲にその名を得たとある。

**キユウシユウセイバツ 九州征伐** 天正十四年十二月豊臣秀吉は、島津義久を征するの勅許を得、諸將をして明年春大坂に會せしめた。前田利家乃ち尾山城に前田安勝、七尾城に前田良繼及び高島定吉、守山に前田長種、増山に片山延高を置いて留守せしめ、子利長と共に京師に赴き、十五年二月廿日利長は兵三千を率ゐて先づ討薩の途に上つた。利家も亦從はんと請うたが、秀吉は許さずして禁闕を守備せしめた。秀吉の軍九州に入るや沿道皆風靡したが、獨秋月種實の臣熊谷久重・芥田六兵衛等は、豊前巖石城を固守して抗敵した。四月利長秀吉の命を奉じ、自ら搦手の攻撃に當り、長連龍・奥村永福・横山長知・山崎長徳・岡島一吉・松平康定・陰山三右衛門・大平宗左衛門等奮戦して、大手の藩生氏郷軍に策應したので、城遂に陥つた。秀吉因つて増田長盛を遣はして、感狀を利長に與へしめた。次いで五月七日島津義久降を請ひ、七月諸軍京師に凱旋し、利長は八月七日麾下の功を論じ賞を行つた。

**キユウシヨウキ 舊條記** 三册。舊事記。御家人舊條記の別名がある。加賀藩の犯罪處罰例規で、大體の綱目を御仕置之類・主人之類・家従の類に分ち、その一類を一冊宛に綴つてある。巻尾に雜類といふのがあるが、それは前各類の補遺であつて、前記以外の雜類ではない。上巻の御仕置之類として集められたものは、當時の言葉で上にかゝる罪と言つたもの、及びこれに對する處分であり、しかも藩侯に直屬する身分のものゝ場合のみである。中巻の主人之類は、藩侯直屬の身分の者に起つた事故ではあるが、警察事故といふやうなものが集められてゐる。下巻の家従之類は、藩侯から見ても陪臣、即ち御昵近の士分に屬する家來の身上に起つた事故で、多く士分の家來とその主人又は他の主人との關係について記されてゐる。著者は明瞭でない。

**キユウシヨウジ 久昌寺** 金澤堀川角場町に在つて、奕葉山又は羅漢山と號し、曹洞宗に屬する。慶長十五年明岩の創建する所で、その前山繁應を第一代に置いた。閉基は前田利長の夫人玉泉院で、寺號は尾張に在る夫人の義母にして織田信長の室たる久庵桂昌の墳寺久昌寺の名を探り、こゝに考妣の位牌を安んじたものである。

**キユウシヨウジマヘ 久昌寺前** 金澤堀川の久昌寺の前通であり、元祿九年の地子町肝煎裁許附にも久昌寺前と見える。廢藩の後一時荒廢して畑地となつた。今堀川角場町に屬する。

**キユウセンサンシ 九仙山志** 前田齊廣の子延之助の著した稗史で、水滸傳に倣つたものである。延之助は異學を好み、文才があつたが、尙幼年であつたから、この著も鏡かに結構の大體を示したに過ぎぬ。

**キユウソウシヨウセツ 嶋巢小説** ↓カカシヨウセツ 可觀小説。

**キユウソウテンワ 嶋巢傳話** 一册。味方原合戦を初め、徳川氏に關する説話を多く載せてある。これらは新井白石の談を、室鳩巢からその門人に通知した書簡五十一編を整理したものである。

**キユウソウブンシユウ 嶋巢文集** 四十七卷。室鳩巢の詩文集で、その朝大地昌言が加賀藩にての作を前編十三卷、江戸にての作を

後編十三卷、江戸にての作を